

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2020年度は図書委員会を4回開催した。各回の主な審議事項は下記のとおりである。

第1回(5月18日～29日) メール会議

- ① 図書館諸規程(内規)の改正について
- ② 2020年度図書館各種委員会委員構成について
- ③ 和泉研究用図書予算の見直しについて

第2回(7月20日～31日) メール会議

- ① 2021年度教育・研究に関する年度計画書の作成について

第3回(10月21日) Zoomによるオンライン会議

- ① 2021年度予定経費要求について

第4回(2021年2月26日) Zoomによるオンライン会議

- ① 2021年度図書予算配分について
- ② 2021年度図書館各種資料申込みについて
- ③ 2021年度図書館開館スケジュールについて

2.2 電子資料分科会

2020年度は以下の日程で分科会を開催した。審議事項は下記のとおりである。

第1回(オンライン・8月6日): デジタル資料費・逐次刊行物予算の上限, 2021年中止候補, 新規バックナンバー申込

第2回(オンライン・9月24日): 2020年度研究用雑誌・新聞及びデータベースの選定, 2020年度研究用雑誌・新聞及びデータベースの新規購入申込

第3回(オンライン・11月24日): 2020年度新規研究用雑誌・学習用雑誌・バックナンバー・電子資料(データベース)申込

第4回(メール審議・2021年2月13～18日): 2021年度研究用雑誌新聞・電子資料の新規購入受付, 2020年度新規買切データベース購入候補の取り扱い, 2020年度バックナンバー費の執行

第5回(メール審議・2021年2月27日～3月4日): 2021年度データベース新規購入及び学習用電子資料同時接続数の拡大

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたこともあり、分科会の開催はオンラインもしくはメール審議となった。入構制限や図書館の全館臨時休館などにより来館利用ができず電子リソースに対するニーズの高まりという状況のなか、デジタル資料費・逐次刊行物費予算については、前年度と同規模の上限額が設定された。予算執行状況から判断し秋学期以降新規購入申請受付を実施し、予算上限額に沿って研究用雑誌・電子資料の新規購入申請について審議を進めた。新規購入については買切製品を中心に国内外のデータベースなど多数申請され、中でもオンライン授業などで活用しやすい学習用電子資料への希望も多く出たため、次年度以降の予算措置を含めた導入準備を進め分科会でも承認された。

バックナンバー・買切データベース(ジャーナル・アーカイブ)7種(和・洋, 冊子4種・電子3種), 研究用雑誌・新聞3誌(洋, 電子), 購読データベース3種(和・洋)が新規契約・購入となった(別項「資料購入一覧」参照)。なお、新規データベース購入申請のうちジャーナル・アーカイブではない買切データベースについては別途、図書館基礎資料選定分科会・特別資料選定分科会に推薦した。

2.3 図書館基礎資料選定分科会

本年度はメールによる審議の結果、選定候補から購入資料を決定した。購入内容は別項「図書館基礎資料購

入一覧」の通り。

2.4 特別資料選定分科会

第4回電子資料分科会で選定された資料の内、1件300万円を超える資料2点について推薦があった。メールによる審議の結果、購入を決定した。購入内容は別項「資料購入一覧」の通り。

2.5 蘆田文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず、メールによる会議の形式で協議・選定を行った。その結果、以下10点の資料を購入した。

- 新製輿地全圖（天保15年）
- 泰平御臺場画圖（江戸末期写）
- 品川海新規御臺場絵圖略（江戸末期写）
- 海陸御固御場所附：豆州相州武州上総下総房州（嘉永頃刊）
- 【仮題】嘉永三年二月虎ノ門火事の擦物（嘉永3年刊）
- 大地震満水の圖：弘化四年善光寺大地震（弘化4年頃刊）
- 江戸大地震并出火番附（安政2年刊）
- 安政元年十二月廿八日江戸連雀町青山山上屋敷付近圖2枚
- 蝦夷絵圖（文化4年写）
- 十一箇国御固図（安政五年十月新刻）

2.6 江戸文藝文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず、メールにより審議を行った。

その結果、以下の全4点の資料を購入した。

- 馬琴著作當雙六 / 楊洲周延筆 . -- 森本順三郎, 明治23 [1890]
- 昇平鼓腹三府膝栗毛 3編9巻 / 松村桜雨著 ; 松斎吟光画 . -- 島鮮堂, 明治14 [1881]
- 禮者集 1冊 . -- 鶴屋喜右衛門, 享和2 [1802]
- 案之月新刀明鑑 2編6巻 / 滝沢馬琴作 ; 勝川春亭画 . -- 和泉屋市兵衛, 文化7 [1808]

2.7 日本近代文学文庫選書分科会

6月にメールによる分科会を開催し、日本近代文学文庫選書基準及び選書方法を確認した。

2020年度は以下の全10点の資料を購入した。

- 鶴殺疾刃庖刀 / 三遊亭圓朝口述 ; 小相英太郎速記 . -- 薰志堂, 1887.
- 谷間之鶯 : 歐洲新話 / セルバント著 ; 斎藤良恭譯 . -- 共隆社, 1887
- 照日葵 : 慨世悲歌 / 須藤南翠著 ; 鮮齋永濯繡圖 . -- 春陽堂, 1888. -- (古蒼楼叢書)
- 小さな王國 / 谷崎潤一郎著 . -- 天佑社, 1919
- 色ガラスの街 : 詩集 / 尾形亀之助著 . -- 恵風館, 1925
- 冥途 / 内田百閒著 . -- 再版第3版 . -- 三笠書房, 1935
- 櫛笥集 : ゆかりのおんな / 鏡花小史 [著] . -- 春陽堂, 1921
- 蝶 / 小山内薫著 . -- 水野書店, 1909
- 旅順入城式 / 内田百閒著 . -- 岩波書店, 1934
- 龍蜂集 / 泉鏡太郎著 . -- 春陽堂, 1923

2.8 学術・教育成果リポジトリ運営部会

2020年度は学術・教育成果リポジトリ運営部会を、2月19日にオンライン（Zoom）で開催した。前年度からの継続案件である「明治大学学術成果リポジトリ運用指針」の改正について審議を行い、提案のとおり承

認められた。改正の主な目的は、これまではリポジトリへの登録に際して、著者が「学内限定公開」という条件を選択することが出来たが、オープンアクセス方針（2019年12月制定）の内容に合わせて、全ての登録対象を学外も含め公開するということであった。

2.9 図書館振興資金運営部会

明治大学図書館振興資金は、図書館の学術資料の継承、特色ある資料の維持・購入及び環境整備を行うことを目的として2018年度に設定された。まずは、特別資料（1件300万円以上）の購入に向け、積立てを継続中である。2020年度末までに累計51件の寄付を受け、果実を含む2,224,149円を積立てている。

2.10 図書館紀要編集部会

2020年度は部会を招集せず、メール審議（審議期間7月30日～8月1日）を行った。図書館紀要『図書の譜』第25号について、特集を「新型コロナウイルス感染症対策と大学図書館」とし原稿募集を開始すること、第26号（2021年度）以降は、図書館の定型業務として、部会の開催を待たずに原稿募集を事務局で開始することを承認した。

『図書の譜』第25号を刊行した（A5版、126頁、2021年3月31日刊行、500部発行）。内容は、5.刊行物掲載の目次を参照。

2.11 書評コンテスト選考部会

コロナ禍の中において、第11回明治大学図書館書評コンテストを開催、開催中止もしくは条件付き開催か、についてメール審議を行った。その結果、コンテスト開催中止の判断とし、6月16日にコンテスト中止の結果報告をメールにて選考部会員に通知した。

なお、中止についての意見（集約）は下のとおり。

- ・（今後の開館状況など）先が見通せない。
- ・学生が図書館を通常通りに利用できない。
- ・この状況下で、学生たちが書評の準備をするのは負担である。

例年、応募要領の掲示は7月上旬に行っていたため、第11回書評コンテスト中止についても7月7日に告知した。

2.12 生田図書館ギャラリー運営部会

生田図書館ギャラリー運営部会は、生田図書館ギャラリーの計画的な運営を目的とし、生田キャンパスに所属する図書館副館長を部会長とし、理工学部及び農学部図書委員各2名をもって組織されている。

ギャラリー展示企画については例年公募を行い、生田図書館ギャラリー運営部会にてスケジュール等を審議している。しかし、2020年度の展示企画については、展示スケジュールが決まっていたにもかかわらず、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からギャラリーを閉室とした。そのため、一部を除き予定していた企画展示の中止またはオンライン展示への切り替えにせざるをえない状況となった。

2020年度の展示企画の募集については、メール審議（審議期間2021年3月16日～3月23日）の結果、募集停止とすることが承認された。ただし、オンライン展示については、図書館ホームページ等での広報活動を支援することとした。

2.13 図書館活用法運営部会

図書館活用法運営部会は、全学共通総合講座「図書館活用法」を適切に運営することを目的として、図書委員会の下に設置されており、図書館長、副館長、授業コーディネーター、職員で構成されている。2020年度、授業は、駿河台、生田で各1コマ、和泉で2コマの合計4コマを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面授業をオンデマンド型のオンライン授業に変更して実施した。会議についても、メールまたはオンライン形式に変更し、オンライン授業の検証を中心に各授業の実施状況を振り返り、次年度の授業

計画を策定するとともに、将来的なあり方について意見交換を行った。

図書館活用法運営部会作業グループ

図書館活用法運営部会作業グループは、図書館活用法運営部会の下に設置されており、各図書館事務室から職員が1名選出されている。

2020年度は、Microsoft Teams を利用して随時、意見交換を行ったほか、会議は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン形式に変更して開催した。検討した主な内容は、以下のとおりである。

- ・オンライン授業の運営方法及び振り返り
- ・2019～2020年度の授業検証および授業指針の更新
- ・2021年度の授業構成
- ・2022年度以降の図書館活用法について
- ・電子ファイルの管理方法

2.14 閲覧部署連絡会

閲覧部署連絡会は、図書館のサービスを改善するために、閲覧担当部署の円滑な運営を目的として、図書館利用規程に関する事項、貸出・蔵書業務に関する事項、レファレンス・マルチメディア業務に関する事項、その他連絡会が必要と認めた事項について審議する。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴い、閲覧部署連絡会では図書館サービスや利用者への周知について膨大な決定事項及び対応作業に迅速に対応することが求められた。よって、例年のように日時を決めての集合会議は行わず、感染拡大防止の観点からも、すべてMicrosoft Teams やメーリングリストなどを活用してのリモートでの審議や情報共有等を行った。検討事項のほとんどは新型コロナウイルス感染症対応のための運用変更についてであったが、一度変更を決定した運用でも緊急事態宣言や大学の活動制限指針レベルの変更に応じて断続的に検討を継続し、状況に応じて段階的に実施した。

新型コロナウイルス感染症対応に関する主な審議事項は以下のとおり。

- ・臨時休館及び短縮・限定開館に伴う、サービス変更について
- ・サービス変更に関する広報（ニュース・Oh-o!Meiji など）について
- ・臨時休館及び短縮・限定開館に伴う、貸出中資料の返却期限・予約棚資料の期限延長について
- ・臨時休館及び短縮・限定開館における資料の返却方法、延滞者、罰則付与者に対する対応について
- ・督促の一時停止措置と段階的再開について
- ・弁済に関する基準及び運用の変更について
- ・リバティアカデミー開講中止に伴う返金対応について（リバティアカデミー会員失効者への返金）
- ・利用制限に伴う地域住民への有効期限延長措置及び希望者への返金対応、リバティアカデミー会員への有効期限延長措置について
- ・「郵送貸出サービス」について（全5期間）（※1）
- ・館内利用サービスの変更に伴う館内環境安全対策等のキャンパス間及び業務委託者（明大サポート）との共有について
- ・2021年度（活動制限指針レベル1）に向けての閲覧関係運用変更について
- ・システム担当者作成の「入館予約システム（試作版）」の検証
- ・図書館代表メール（lib-webmaster）による閲覧関係の問い合わせの対応分担について
- ・臨時休館及び短縮・限定開館における購入希望（学習用推薦図書・研究用図書）の取扱いについて
- ・活動制限指針レベル別利用者入館制限について
- ・マイクロ資料・貴重書資料閲覧の受付方法変更について
- ・ProQuest Ebook Central の利用者範囲について

（※1）「郵送貸出サービス」は、レファレンス担当と連携し、「ILL 複写郵送サービス」「所蔵雑誌複写郵送サービス」と並行して検討を行った。

例年実施している事項についても、新型コロナウイルス感染症の影響を少なからず受けながら以下のとおり実施した。

- ・新名誉教授の称号記授与式が 10 月に延期となり、教務事務室と連携し、対象者へ図書館利用案内を送付した。
- ・目録チーム・業務委託者（丸善雄松堂）からの所蔵調査の連絡方法について、各館での対応が異なっていたため統一した。
- ・夏季・冬季・春季長期貸出を実施した。これに伴い、キャンパス間臨時連絡便を 2021 年 1 月 7 日に手配した。
- ・「図書館利用願い」による 2021 年度入学予定の大学院入学前利用について、2020 年度は実施しないこととした。
- ・年度末の貸出処理及びライブラリーカード更新処理は、利用可能な利用者に対し、おおむね例年どおり対応した。
- ・定年退職者への図書館利用案内を例年どおり実施した。
- ・卒業督促について、2020 年度は学部からの卒業通知発送は Oh-o!Meiji による通知に変更され、学位記は郵送対応となった。これにより、督促状は図書館から個別に居住先へ郵送する対応に変更した。コロナ禍にある卒業予定者ということもあり、正確な居住先を把握する必要があったため、教務事務室との連携により実施した。
- ・運用実態に合わせ、各種マニュアル（「雑誌最新号の配送マニュアル」、「紛失・汚損などの図書の弁済処理マニュアル」「通常督促スケジュール（全館）」「利用者向け図書館メールサービス」「督促マニュアル（全館）」、「明高中配送マニュアル」）の改訂を行った。
- ・閲覧部署連絡会の下に設置された「次期ライブラリーカード検討 WG」にて新デザインのライブラリーカードを検討するにあたり、カード裏面表記に記載した案内文について検討し修正を行った。

2.15 次期ライブラリーカード検討 WG

現デザインのライブラリーカード導入から長年が経過（約 20 年弱）したことから、2019 年に閲覧部署連絡会の下に、次期ライブラリーカード検討 WG を設置し検討を重ねてきた。2020 年度は、以下のとおりオンラインにて部会を開催し、ライブラリーカードのあり方やデザイン更新について検討した。

- ・4 月 30 日 顔写真の有無、券面のデザイン、規格について
- ・7 月 3 日 券面の仕様について
- ・10 月 15 日 券面の可変事項記載方法、連番印刷の有無について
- ・11 月 6 日 顔写真印刷の有無、連番印刷、現行カード残部、デザインについて

なお、決定事項は、以下のとおりとし、スタッフ会で承認を得た。

- ・デザイン：業者委託により、カードデザイン 3 案を作成し、その中から選定する。
- ・規格：IC カード化は見送り、磁気カードとする。
- ・運用：顔写真および連番印刷は行わない。氏名・利用者 ID・利用者区分や磁気コードの可変事項については、現在のカードプリンターを使用する。
- ・ライブラリーカードの新デザインの運用開始は、2021 年度期中からとする。
- ・ライブラリーカードの新デザインは以下のとおり（次頁）。

【表】



【裏】



2.16 利用案内編集分科会

利用案内編集分科会では、関係事務室の職員が構成員となり各利用案内の編集を行っており、現在、事務局は生田図書館事務室が担っている。

2020 年度は会議を招集せず、「教員用利用案内」（2021 年度版）の編集を中心に活動を行った。2020 年 4 月発行の「学生用利用案内」は、2020 年 9 月開催の私立大学図書館協会総会・研究大会が本学駿河台キャンパスを会場とし、大会参加者へ配布するため例年より多く発行していた。（発行部数 9,100 部のうち 900 部が総会・研究大会配布用）しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により総会・研究大会がオンライン開催となり、準備していた学生用利用案内を配布できなかった。残部が大量にあるため 2021 年度は学生用利用案内を作成せず、2020 年 4 月発行のものを引き続き利用することとした。

2021 年度には「学生用利用案内」と「らいぶ」の統合に向けて準備を進める。

2.17 『らいぶ』（図書館報）編集分科会

2020 年度は会議を招集せず、「学生用利用案内」と「らいぶ」の統合に向けて準備を進めるため、2020 年度版の「らいぶ」は発行しなかった。

2020 年 3 月発行の「らいぶ」（通算第 26 号）は、2020 年 9 月開催の私立大学図書館協会総会・研究大会が本学駿河台キャンパスを会場とし、大会参加者へ配布するため例年より多く発行していた。（発行部数 5,900 部のうち 900 部が総会・研究大会配布用）しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により総会・研究大会がオンライン開催となり、準備していた「学生用利用案内」とともに「らいぶ」も配布できなかった。残部が大量にあるため 2020 版「らいぶ」を 2021 年度も引き続き利用することとした。

2.18 中央学習用図書選書分科会

中央学習用図書選書分科会（以下、選書分科会）は、「明治大学図書館中央図書館学習用図書選書分科会運営内規」に基づき、中央図書館事務長を座長とし、座長が指名した中央図書館事務室及び図書館総務事務室の

職員により形成される。本分科会は、原則、隔週で開催されており、和書 4 社、洋書 2 社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行うものである。

2020 年度は 23 回選書分科会を行った。その中で、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い在宅勤務が導入された。図書館として、発注業務を継続するという方針が示されたため、選書は続ける必要があった。従前は集合しての会議を行ってきたが、密になることを避けるため、4 月 15 日から 6 月 24 日までの 6 回についてのみ、選書分科会における選書を集合選書から選書分科会員が個別に選書を行う方法に変更した。見計らい資料を持ち込む書店の方針も確認したが、見計らいの持ち込みができない、停止したいという書店はなく、各書店の多大なる協力により見計らい選書を継続することができた。

選書にあたっては、学生が図書館に来館することが難しいことを考慮し、電子ブックの購入をより積極に行った。シラバスの参考図書欄掲載図書について、洋書についてはすでに電子ブックを優先して購入していたが、和書も同様に購入した。しかし、電子ブックで提供されているタイトルは非常に少なかった。今後の拡充に期待したい。ほかには、レファレンスブック類、教科書に採用されるような洋書電子ブック、Oxford Handbooks Online 掲載タイトル（2021 年度の EBA 環境提供付き）なども購入した。

なお、図書館基礎資料選定分科会への推薦として Oxford Scholarship Online 掲載タイトル、Cambridge Core eBooks 掲載タイトル（ともに 2021 年度の EBA 環境提供付き）を選定・推薦し、採用された。

2.19 教員による生田図書館学習用図書選書分科会

「教員による生田図書館学習用図書選書分科会運営内規」に基づき、理工学部、農学部の各学科等より選書委員を選出した。例年であれば新任の選書委員に対して個別説明会（ガイダンス）を実施するが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施していない。また、選書委員にお願いしている見計らい図書の選書についても 2020 年度は実施していないが、その代わりに「学習用図書推薦」を依頼した。この他、昨年同様に夏休みの読書支援として「緑陰読書～教員がすすめる本」を企画し、教員へ図書の推薦を依頼した。

2.20 オンラインサービス WG

2019 年度、日本語版 HP リニューアルのために発足した新図書館 HP 検討 WG を当 WG へ吸収し、引き続き課題となっている英語版 HP のリニューアル作業を次の通り進めた。

- 2020 年 7 月、大学 HP の多言語化（英語・中国語・韓国語）が予定されていたため、このスケジュールや実施内容について広報課との調整、また、図書館英語版 HP の方向性を検討し、日本語 HP から必要コンテンツを抜き出し英語版 HP を作成することとした。
- 10 月、英語版 HP サイトマップの検討と決定した。
- 11 月、翻訳を統一するための英単語帳を作成した。
- 2021 年 1 月、英訳原稿の作成完了。
- 2 月、英訳原稿のネイティブチェックを実施した。
- 3 月、広報課との英語版 HP 作成作業に関する調整を行った。なお、2020 年度内公開を予定していたが、大学 HP 多言語版の公開スケジュール（3 月中旬公開）の都合と HP 作成プラットフォーム WebRelease2 の調整作業が別途必要となり、年度内に英語版 HP 公開までは至らなかった。

以上のほか、当 WG では新型コロナウイルス感染症に関連して日本語版 HP の改訂作業を随時行った。

2.21 電子資料 WG

本 WG は電子資料分科会メンバーのうち職員のみで構成され、電子資料分科会での審議等のため準備作業が必要に応じて行うために設置されている。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、従来の情報共有手段であったメーリングリストに加え、前年度に導入された Teams を活用し、日常的に発生する業務連絡を中心に作業を進めた。対面での会議などは実施せず、電子資料分科会の前後などにオンライン会議による情報共有や意見交換を適宜行った。

2.22 リテラシーイベント WG

コロナ禍のため対面イベントは開催しなかった。学生主体の明治大学シェイクスピア・プロジェクト（MSP）からの依頼を今年度も受けたが、2020 年度は「ナラベル」（図書等の情報を集めて公開できる Web サービス）を利用し、本学図書館ページでシェイクスピア関連図書の展示を行った（選書は MSP による，期間は 9 月 21 日～ 11 月 30 日）。例年は各館ギャラリーなどで展示に協力していたが，今年度は展示を行わなかった。10 月 30 日，12 月 8 日に就職キャリア支援センターと図書館の共催で「就活のためのデータベース講習会」がオンラインで開催され，当 WG は広報面で協力した。その他，Meiji Book Avenue(MBA) がオンラインによる明大祭に参加した。